

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	新潟県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	糸魚川市立糸魚川東小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	1	2	3	14	20
児童数	58	46	54	63	37	48	5	311	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「確かな学力」をめざして ～基礎・基本の学びと総合的な学習の響き合い～</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年：算数，国語 学力に学年格差が見られ，学年が上がるにつれ個人差が広がる傾向にある。</p> <p>1・2年生：生活科，3・4・5・6年生；総合的な学習の時間 教科で学んだことを生活体験などと結びつけることによって，教科で学習したことを実感として理解し，知識や技能が確実に身に付くと考える。その体験の場としても取り組む。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	
--------	--

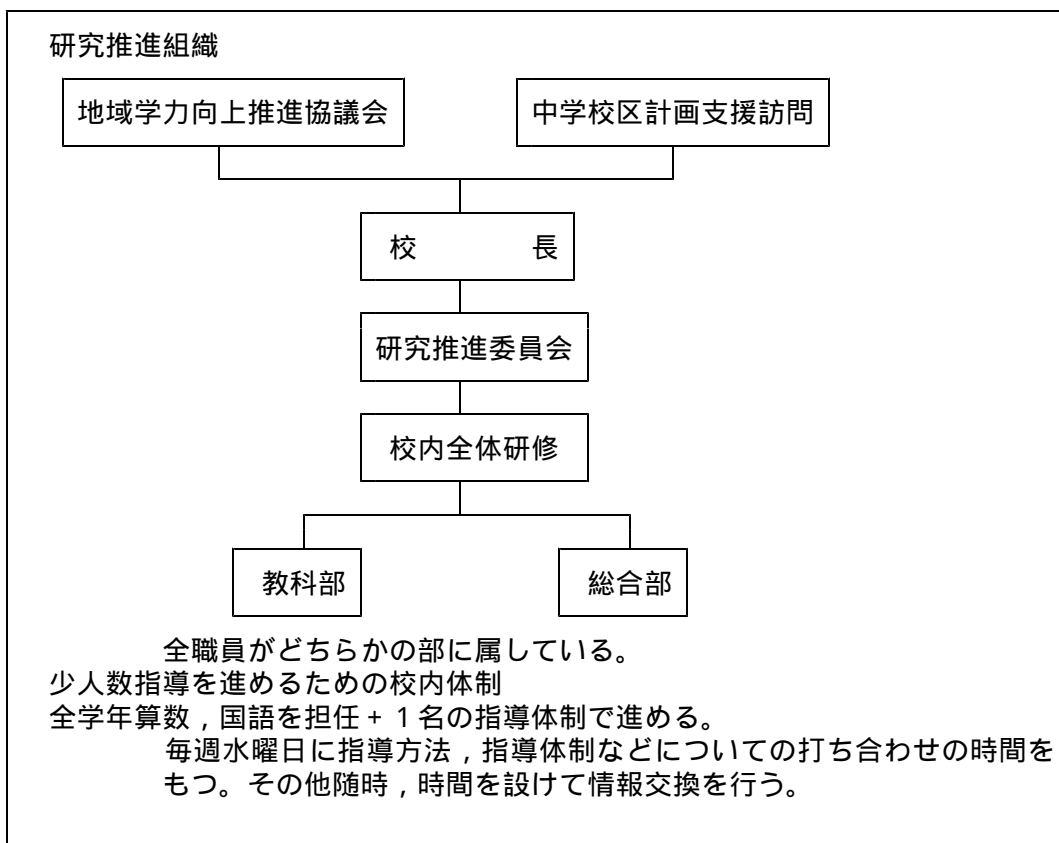
平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の学びと総合的な学習の響き合い 研究の見通し 算数学習を中心に，保護者の理解と協力を得ながら，習熟度別や課題別などの少人数指導を実施し，子ども一人一人の学力向上を図ると共に教師の指導力の向上を図る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 学びの姿勢を育てるための学習指導改善 学習展開の工夫 「学び合う」学級集団づくり</p> <p>(2) 一人一人に学びが成立するための学習指導改善 教材の提示，指導方法，指導体制の工夫と構築 1単位時間の個々の評価とその活用の蓄積 教科と総合的な学習の時間・生活科の関連を意識した学習指導</p>
--------	---

	<p>(3) 家庭，地域，中学校との連携 課題の共有，役割の明確化とパートナーシップの関係づくり 目的意識や学ぶ意欲を高めるための中学校との連携</p>
--	--

平成 16 年度	<p>テーマ 基礎・基本の学びと総合的な学習の響き合い 研究の見通し 「国語，算数」「生活科，総合的な学習の時間」の中で研究を進め，相乗的な効果を図りながら子どもに確かな学力の定着を図る。 研究の内容・方法</p> <p>(1) 学びの姿勢を育てるための学習指導改善 学習展開の工夫 「学び合う」学級集団づくり</p> <p>(2) 一人一人に学びが成立するための学習指導改善 教材の提示，指導方法，指導体制の工夫と構築 1単位時間の個々の評価と有効な活用 教科と総合的な学習の時間・生活科の有効な関連を図った学習指導 専門性を生かした指導体制の工夫</p> <p>(3) 家庭，地域，中学校との連携 家庭学習や地域の支援など，目的意識や学ぶ意欲を高めるための実践的な連携</p>
----------------	--

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 学びの姿勢を育てるための学習指導改善

学習の中に意識して「多様性の尊重」「協同的思考」「価値の共有」という視点を設定して、話し合い、練り上げを通してルールへの定着と子どもたちに自分の考えを話す満足感を味わわせようとしてきた。その結果、子どもたちから「発言がたくさんできるようになった」「友達にすぐ聞けるようになった」という声が聞かれ、教師側からは「自分の考えを手をまっすぐ挙げて進んで発表したり、友達の話をするはずきながら聞いたり、付け足しのつぶやきを言ったりしながら聞いている姿が見られる」「試行錯誤しながら自分の意見をまとめようとする姿が見られる」などの意見が出てきた。

(2) 一人一人に学びが成立するための学習指導改善

習熟度別、課題別グループにすることで、子どもの学習スタイルに応じての教材や指導方法の工夫ができるようになった。また、評価規準に基づき具体的な評価項目をつくることで、子どもの自己評価のめあてもはっきりしてきて、個に応じた支援がある程度見通せるようになってきた。それを受けてあらかじめ具体的な支援の方法を考え準備しているので、子どものつまずきに対してはすぐに対応することが可能になった。ワークテストにおいて、全国平均を上回る子どもが、全ての学年で7割以上を達成した。また、「好きになった」「今までと変わらない」を含め、「算数が好き」とする子どもが全学年とも8割をこえ、「分かる授業」「楽しい授業」を感じる子どもが増えていると推察できる。

(3) 家庭、地域、中学校との連携

少人数指導については、保護者の理解が得られてきて「一人一人の性格が違いうように、学習を理解するスタイルも違ってくると思うので、いろいろな学習形態で一人一人指導してもらおうことは、大変よいことだと思う」「自分に合っていて分かりやすく楽しいと言っている。私も子どもにとって自信をもたせてくれる方法だと思う」など肯定的な意見が多かった。

2. 今後の課題

学習スタイルに応じたコースを設定する。

習熟度別や課題別、等質少人数での学習形態を子どもは喜んでいるが、子どもの実態にさらに応じるためにはどのようなものがよいのか、コース選択のさせ方、教師のかかわり方など、まだまだ改善が必要である。

子どもの自己評価力を高める。

少しずつ自分の学習状態をみつめられるようになってきたが、さらに自分の力を伸ばそうという気持ちをもってコースを選択できるように、「自己評価カード」の見取りや日々子どもへの言葉がけを大切にしていく。

国語科での学習指導の改善をしていく。

算数に比べ国語の好きな子は少ない。子どもたちの国語への意欲をふくらませていくために、算数科で展開してきた学習指導を生かし、子どもたちの実態に合わせて学習指導の改善を図っていく。

生活科・総合的な学習の時間と教科との関連を重点化していく。

年間指導計画で教科との関連を意識して活動してきた。その振り返りを行って、国語、社会、理科、図工、道徳などと関連していることを確認した。しかし、多くの単元と関連するのではなく、徹底して深く関連する内容に絞り、強い結びつきをもって学習を進めていく方が相乗効果があると考えられる。よって、計画の段階で目指す子ども像、育てたい力と関連させたい単元を絞り込んでい

きたい。

学校，家庭，地域，中学校との連携をもっと深めていく。

家庭と協力しながら自主学習に取り組み，子どもたちの主体性，思考力，学
ぶ意欲を育て，家庭学習の習慣化を図ろうとしている。この取組は，家庭にお
ける子どもの生活習慣や家族との対話と深くかかわることをおさえて，全ての
家庭に理解と支援をしてもらえよう働きかけを工夫していく。

学力等把握のための学校としての取組

4月：N R T全国標準診断的学力検査を実施

子どもたちの優れている力や落ち込んでいる力をみつけるとともに，個々の
学力状態を把握し，指導の重点化を図るために実施した。

5月・7月・12月：子どもにアンケートを実施

子どもの学習に関する意識を知るために実施した。

11月：保護者にアンケートを実施

保護者の少人数指導に対する考えや，子どもの家庭学習・自主学習の実態と
保護者の考えを知るために実施した。

1月：ワークテストの結果の分析

各学年で1学期・2学期に行ったワークテストの結果を，単元別，観点別に
集計，グラフ化し，全国と比較して学年の実態を把握した。

2月：C R T教研式標準学力検査を実施

一人一人の到達度を確認するために実施した。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

中間発表会を実施 1月30日（金）

2年・4年・6年が課題別，習熟度別などの算数授業を公開

本校の取組紹介と各学校との情報交換を行う。

理解を図るために保護者にも授業公開し，協議会への参加を呼びかける。

保護者に，学力向上に向けての学校の取組，地域・中学校との取組を紹介した
パンフレットを配布する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校

【学校規模】 □ 6学級以下 □ 7～12学級
 ■ 13～18学級 □ 19～24学級
 □ 25学級以上

【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T・Tによる指導
 ■ 一部教科担任制 □ その他

【研究教科】 ■ 国語 □ 社会 ■ 算数 □ 理科
 □ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭
 □ 体育 ■ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無